

NEJIREBANE, No. 119, 30. April 2007

1960年代に多摩丘陵で採集したオサムシ亜族の記録

Records of Carabina Beetles (Carabidae, Coleoptera), Collected in the Later 1960s at Tama-hill,
Western Kanto-plain, Japan

Ken-ichi MATSUMOTO

松本堅一

〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森 1540 白金山団地 8-102

Abstract

The author had collected the Carabina beetles during 1964 to 1970 at Tama-hill and the collecting data of these beetles are presented. Four species belonging to the group have been recognized: *Carabus (Ohomopterus) insulicola insulicola* (CHAUDOIR), *Carabus (Ohomopterus) arbrechti esakianus* (NAKANE), *Leptocarabus procerulus procerulus* (CHAUDOIR) and *Damaster blaptoides oxuroides* SCHAUM.

Collections were made during wintertime, almost by digging. Thirty-seven years have passed since 1970, and many places appeared in this paper were developed to change their original features into golf courses, campuses, housing sites, and so on. The author would like to present the paper as an epitaph in memory of a place once the nature dominated.

1. はじめに

多摩丘陵は関東平野の西南部に位置し、多摩川と境川の間に東京都と神奈川県に跨って北西に向かって広がる、長さ約 40km、平均の幅 15km に及ぶ丘陵である。全域関東ローム層と呼ばれる火山灰層に覆われ、丘陵の西北部は最高部の標高は 200m を越え、鶴見川と多摩川支流の無数の谷によりよく開析されていて、東京都町田市権現谷付近で高尾山を中心とする低山地域に接する。南東部及び南西部は標高 50m 程度の平坦な台地状の地形をなし、神奈川県横浜市戸塚区品濃町で横浜南部の

丘陵に接する。松本は 1964年から 1970年にかけて、国土地理院発行の 5万分の 1地形図『東京西南部』『八王子』及び『横浜』を使用し、この丘陵のほぼ全地域を歩き、冬季採集によりオサムシ亜族の調査・採集を行った。その結果を『多摩段丘におけるオサムシ族の分布について』(1972)と題した論文で発表した。

万葉人が「多摩の横山」と呼んで親しんだ多摩丘陵の潜在自然植生は、常緑広葉樹林帯(ヤブツバキクラス域)に属し、東京湾の沿岸部と各河川に沿った地域はシイ・タブ林が広がり、丘陵の中央部は谷地沿いにヨシ、ハンノキ、クヌギ、ケヤキを中心とした湿性植物の群落、斜面はシラカシ・アラカシ林、尾根筋はモミ林がそれぞれ広がっていた。調査・採集を行った当時、シラカシ・アラカシ林、モミ林は、わずかに谷戸と呼ばれる沢の奥や、古い神社の周辺に残っているだけで、多くは薪炭や植林として利用されていた人為的な代償植生であるクヌギ・コナラの二次林、スギ・ヒノキ植林とアカマツ林に変わっていた。それでも北西部では炭焼きが行われているなど、かつての面影はまだ残されていた。以来 37年が経過した現在、多摩丘陵は、延伸した田園都市線、京王線、小田急線、横浜市営地下鉄の沿線に、港北ニュータウン、多摩ニュータウンと呼ばれる巨大な新興住宅地が出現するなどの激しい宅地開発の波に洗われ、住宅地や団地、マンション、ゴルフ場、都心部から進出してきた大学のキャンパス等に変えられてしまった。その経過は高畑勲監督のアニメ映画『平成狸合戦ポンポコ』に描かれているとおりである。その結果、美しく豊かだった多摩丘陵の自然の多くは消え去り、現在は開発の手が伸びていない駅から離れた地域、開発に不向きな尾根筋、保護されている公園緑地や動物園、遊園地等の周辺に島のように森林が残されているだけである。この多摩丘陵の現状を踏まえ、データを添付していない先述の松本(1972)の論文の瑕疵を補う意味でデータを発表し、1960年代当時の多摩丘陵におけるオサムシ亜族の分布状況を明らかにしたい。

なお、日本鞘翅学会の大木裕氏により、横浜市北部周辺の最近のリストが作成されている模様である。発表を待ちたい。本論文の発表に際し、ご校閲の労をとって頂き、ご指導と助言を頂いた水野弘造氏、高橋 敏氏に深甚な感謝を表す。

2. 採集できた種及び採集地点

採集できたのは次の 4種である。

1. アオオサムシ *Carabus (Ohomopterus) insulicola insulicola* (CHAUDOIR)
2. エサキオサムシ *Carabus (Ohomopterus) albrechti esakianus* (NAKANE)
3. クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus procerulus* (CHAUDOIR)
4. ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides* SCHAUM

なお、川崎市麻生区片平におけるセアカオサムシの採集記録(中山他, 2001)、鶴見川におけるアカガネオサムシの採集記録(平山・高桑, 1981)があるが、松本は採集できなかった。

調査・採集地点は図 1 に記入した。

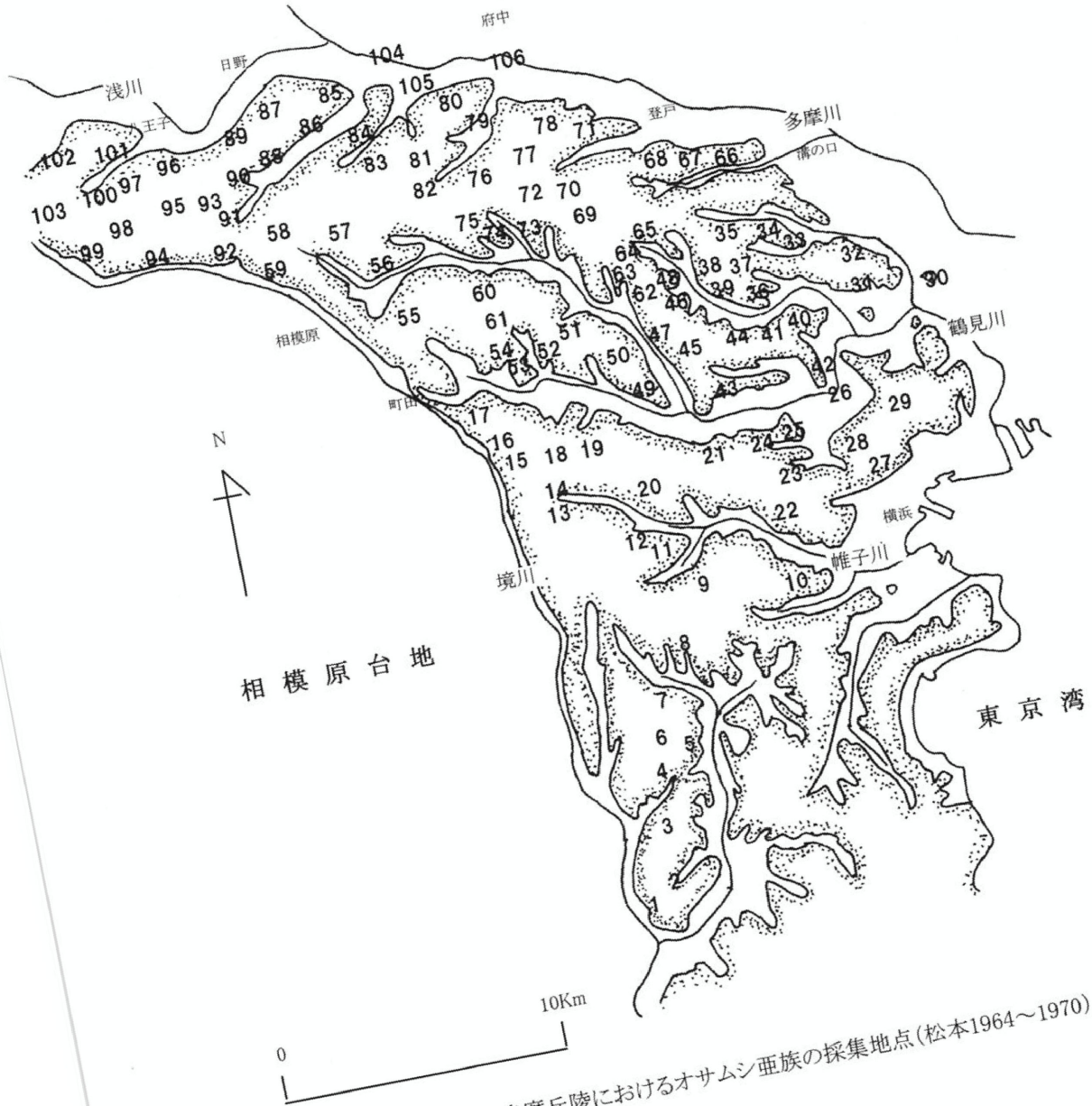
3. 採集の記録

採集地の地名は市町村の合併・昇格、あるいは新興住宅地の建設により変えられているものが多数あるが、字名を含めて採集した当時のものを使い、() の中に可能な限り新地名を示した。

採集地の番号は図 1 に対応する。(30 14.I.1967) のクロナガオサムシは原田洋・金沢昭雄採集のデータであり、それ以外はすべて松本堅一採集のデータである。

NEJIREBANE

武蔵野台地



図I 多摩丘陵におけるオサムシ亜族の採集地点(松本1964~1970)

アオオサムシ *Carabus (Ohomopterus) insulicola insulicola* (CHAUDOIR) 223♂♂260♀♀

- 1 神奈川県横浜市戸塚区小雀町, 標高40m, スギ・ヒノキ植林, 3♂♂3♀♀, 21.III.1969
- 2 神奈川県横浜市戸塚区小雀町, 標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 21.III.1969; 標高60m, アカマツ林, 1♂1♀, 21.III.1969
- 3 神奈川県横浜市戸塚区坂下(神奈川県横浜市戸塚区戸塚町) 標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂2♀♀, 21.III.1969
- 4 神奈川県横浜市戸塚区矢部(神奈川県横浜市戸塚区矢部町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 24.III.1969
- 5 神奈川県横浜市戸塚区矢部(神奈川県横浜市戸塚区矢部町) 標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 24.III.1969
- 6 神奈川県横浜市戸塚区上矢部(神奈川県横浜市戸塚区上矢部町) 標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂2♀♀, 24.III.1969; 標高60m, スギ・ヒノキ植林, 4♀♀, 24.III.1969; 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 3♂♂2♀♀, 24.III.1969
- 7 神奈川県横浜市戸塚区岡津(神奈川県横浜市戸塚区岡津町) 標高40m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 4♀♀, 24.III.1969
- 8 神奈川県横浜市戸塚区新橋町(神奈川県横浜市戸塚区新橋町) 標高60m, アズマネザサ草原, 3♂♂, 24.III.1969
- 9 神奈川県横浜市保土ヶ谷区桐ヶ作(神奈川県横浜市旭区桐ヶ作) 標高60m, ススキ草原, 1♂, 26.III.1969
- 10 神奈川県横浜市保土ヶ谷区市沢町(神奈川県横浜市旭区市沢町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 26.III.1969
- 11 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今宿(神奈川県横浜市旭区今宿町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 26.III.1969
- 12 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今宿(神奈川県横浜市旭区今宿町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂1♀, 26.III.1969
- 13 神奈川県横浜市保土ヶ谷区下川井町(神奈川県横浜市旭区下川井町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林(スギ混), 1♂2♀♀, 26.III.1969
- 14 神奈川県横浜市保土ヶ谷区上川井町(神奈川県横浜市旭区上川井町) 標高80m, スギ・ヒノキ植林, 1♂1♀, 23.II.1969; 標高80m, スギ・ヒノキ植林, 16♂♂14♀♀, 23.II.1969; 標高80m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 1♂, 23.II.1969; 標高80m, スギ・ヒノキ植林, 2♀♀, 23.II.1969
- 15 神奈川県横浜市港北区梅田谷戸(神奈川県横浜市緑区霧が丘) 標高80m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 2♂♂1♀, 23.II.1969
- 16 神奈川県横浜市港北区山谷(神奈川県横浜市緑区長津田) 標高80m, アカマツ林, 2♂♂3♀♀, 23.II.1969
- 17 神奈川県横浜市港北区長津田(神奈川県横浜市緑区長津田) 標高80m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 1♀, 23.II.1969
- 18 神奈川県横浜市港北区三保町(神奈川県横浜市旭区三保町) 標高80m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 1♀, 23.II.1969; 標高80m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 5♂♂2♀♀, 2.III.1969
- 19 神奈川県横浜市港北区台村町(神奈川県横浜市緑区台村町) 標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 2.III.1969; 標高40m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 5♂♂2♀♀, 2.III.1969
- 20 神奈川県横浜市保土ヶ谷区上白根町(神奈川県横浜市旭区上白根町) 標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 2.III.1969
- 21 神奈川県横浜市港北区上山町(神奈川県横浜市緑区上山町) 標高60m, スギ・ヒノキ植林, 7♂♂6♀♀, 8.III.1969
- 22 神奈川県横浜市港北区新井町(神奈川県横浜市保土ヶ谷区新井町) 標高60m, スギ・ヒノキ植林, 1♂, 8.III.1969
- 23 神奈川県横浜市神奈川区菅田町 標高20m, クヌギ・コナラ二次林(伐採跡), 3♂♂1♀, 11.III.1969; 標高20m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 11.III.1969
- 25 神奈川県横浜市港北区鳥山町 標高40m, アカマツ林(スダジイ混), 1♂1♀, 11.III.1969
- 26 神奈川県横浜市港北区鶴見川 標高0m, 畑地, 1♀, 5.I.1967
- 27 神奈川県横浜市神奈川区羽沢町 標高60m, ススキ草原, 1♀, 11.III.1969
- 29 神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷 標高40m, 畑地周辺のスダジイ垣根, 1♀, 11.III.1970
- 30 神奈川県川崎市越路(神奈川県川崎市幸区南加瀬夢見ヶ崎公園) 標高30m, 公園草地, 7♂♂1♀, 26.XI.1966
- 31 神奈川県横浜市港北区日吉本町 標高20m, スギ・ヒノキ植林, 1♂1♀, 27.XII.1966; 標高20m, クヌギ・コナラ二次林(灌木), 2♂♂4♀♀, 27.XII.1966
- 32 神奈川県川崎市久末(神奈川県川崎市高津区久末) 標高20m, クヌギ・コナラ二次林(灌木), 1♂1♀, 27.XII.1966
- 33 神奈川県川崎市野川(神奈川県川崎市宮前区野川) 標高20m, 畑地, 1♂1♀, 6.II.1966
- 34 神奈川県川崎市野川(神奈川県川崎市宮前区野川) 標高20m, クヌギ・コナラ二次林(灌木), 1♀, 31.I.1966
- 35 神奈川県川崎市有馬(神奈川県川崎市宮前区有馬) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 31.I.1966
- 36 神奈川県川崎市有馬(神奈川県川崎市宮前区有馬) 標高80m, ススキ草原, 1♂, 26.XI.1967
- 37 神奈川県横浜市港北区小山田(神奈川県横浜市都筑区すみれが丘) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂2♀♀, 26.XI.1967
- 38 神奈川県横浜市港北区東山田(神奈川県横浜市都筑区東山田) 標高40m, ススキ草原, 1♂, 26.XI.1967
- 39 神奈川県横浜市港北区東山田(神奈川県横浜市都筑区東山田) 標高40m, ススキ草原, 1♂2♀♀, 26.XI.1967; 標高30m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 26.XI.1967
- 40 神奈川県横浜市港北区新吉田町 標高40m, クヌギ・コナラ二次林(スギ混), 1♂2♀♀, 30.XII.1966
- 41 神奈川県横浜市港北区勝田町(神奈川県横浜市都筑区勝田町) 標高30m, クヌギ・コナラ二次林(スギ混), 3♀♀, 30.XII.1966
- 42 神奈川県横浜市港北区大熊町(神奈川県横浜市都筑区大熊町) 標高30m, 竹林, 1♂2♀♀, 5.I.1967
- 43 神奈川県横浜市港北区池辺町(神奈川県横浜市都筑区池辺町) 標高50m, 竹林, 1♂, 29.XII.1967
- 44 神奈川県横浜市港北区浜沢(神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎町) 標高50m, クヌギ・コナラ二次林(スギ混), 1♂, 3.XII.

1967

- 45 神奈川県横浜市港北区柚木 (神奈川県横浜市都筑区荏田東町) 標高10m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 3.XII.1967
- 47 神奈川県横浜市港北区上サ (神奈川県横浜市都筑区荏田南町) 標高60m, スギ・ヒノキ植林, 2♂♂1♀, 28.XII.1967
- 48 神奈川県横浜市港北区柚木 (神奈川県横浜市青葉区荏田町) 標高50m, クスギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 28.XII.1967; 標高50m, 竹林, 1♂2♀♀, 28.XII.1967
- 49 神奈川県横浜市港北区北八朔町 (神奈川県横浜市緑区北八朔町) 標高50m, 竹林, 1♂2♀♀, 24.II.1966; 標高50m, ススキ草原, 2♀♀, 24.II.1966
- 50 神奈川県横浜市港北区西八朔町 (神奈川県横浜市青葉区つつじが丘) 標高50m, ススキ草原, 2♀♀, 24.II.1966
- 51 神奈川県横浜市港北区恩田町 (神奈川県横浜市青葉区松風台) 標高50m, スギ・ヒノキ植林, 2♀♀, 25.II.1968; (神奈川県横浜市青葉区桂台) 標高60m, クスギ・コナラ二次林 (ヒノキ混), 1♂2♀♀, 25.II.1968
- 52 神奈川県横浜市港北区奈良町 (神奈川県横浜市青葉区すみよし台) 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 2♂♂1♀, 25.II.1968
- 53 神奈川県横浜市港北区鍛冶谷 (神奈川県横浜市青葉区恩田町) 標高60m, クスギ・コナラ二次林 (ハンノキ混), 1♂1♀, 7.III.1968; (神奈川県横浜市青葉区あかね台) 標高70m, アカマツ林 (ヒノキ混), 5♂♂3♀♀, 7.III.1968
54. 東京都町田市成瀬町奈良谷戸 標高80m, スギ・ヒノキ植林, 1♂, 7.III.1968; 標高60m, アカマツ林, 1♂, 7.III.1968; 三ッ又 (東京都町田市成瀬台) 標高80m, スギ・ヒノキ植林, 1♀, 7.II.1969
- 55 東京都町田市金井町袋標高80m, クスギ・コナラ二次林, 1♂2♀♀, 2.II.1969
- 56 東京都町田市野津田町新屋敷標高100m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 5.I.1969
- 57 東京都町田市下小山田町大久保 (東京都町田市下小山田町東京国際ゴルフ場) 標高180m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 19.II.1967; 標高100m, 畑地, 2♀♀, 7.II.1969; 下小山田町桜ヶ谷 標高100m, クスギ・コナラ二次林 (スギ混), 1♂3♀♀, 7.II.1969; 下小山田町堂谷 標高100m, アカマツ林, 1♀, 7.II.1969
- 58 東京都町田市下小山田町中谷戸 標高140m, クスギ・コナラ二次林, 5♂♂7♀♀, 7.II.1969
- 59 東京都町田市小山田町中村 標高140m, クスギ・コナラ二次林 (アカマツ混), 1♂2♀♀, 7.II.1969
- 60 東京都町田市三輪町 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 11.III.1968
- 61 東京都町田市三輪町 標高40m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 11.III.1968; 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 2♀♀, 11.III.1968; 神奈川県横浜市港北区奈良町北ヶ谷 (神奈川県横浜市青葉区奈良町北ヶ谷) 標高60m, アズマネザサ草原, 1♀, 11.III.1968
- 62 神奈川県横浜市港北区緑区竹下 (神奈川県横浜市青葉区大場町) 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 21.I.1968; 神奈川県横浜市港北区大場町 (神奈川県横浜市青葉区大場町) 標高70m, クスギ・コナラ二次林 (ヒノキ混), 1♀, 21.I.1968
- 63 神奈川県横浜市港北区黒須田 (神奈川県横浜市青葉区あざみ野) 標高70m, アカマツ林, 1♂1♀, 1.III.1966; 標高70m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 1.III.1966
- 65 神奈川県横浜市港北区元石川 (神奈川県横浜市青葉区美しが丘) 標高60m, 竹林, 1♂, 31.I.1967
- 67 神奈川県川崎市長尾 (神奈川県川崎市多摩区長尾) 標高100m, クスギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 7.I.1965; 標高20m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 7.XI.1965
- 68 神奈川県川崎市枳形山 (神奈川県川崎市多摩区枳形山) 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 15.III.1968; 鷺沼 (神奈川県川崎市多摩区鷺沼) 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 15.III.1968
- 69 神奈川県川崎市王禅寺 (神奈川県川崎市麻生区王禅寺) 標高80m, クスギ・コナラ二次林 (trap), 2♂♂2♀♀, 26.VI.1966; 標高80m, アカマツ林 (アズマネザサ混), 1♂, 4.II.1968; 標高80m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 4.II.1968; 標高50m, クスギ・コナラ二次林, 2♀♀, 4.II.1968
- 70 神奈川県川崎市上麻生 (神奈川県川崎市麻生区上麻生) 標高70m, クスギ・コナラ二次林, 3♂♂2♀♀, 14.III.1968; 真福寺 標高70m, クスギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 14.III.1968; 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 14.III.1968; 川崎市山口 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 14.III.1968
- 71 神奈川県川崎市菅 (神奈川県川崎市多摩区菅馬場) 標高40m, クスギ・コナラ二次林, 2♂♂3♀♀, 27.XII.1968; 標高80m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 27.XII.1968; 標高60m, クスギ・コナラ二次林, 2♀♀, 27.XII.1968
- 72 神奈川県川崎市金程 (神奈川県川崎市麻生区金程) 標高80m, クスギ・コナラ二次林 (アラカシ混), 2♂♂, 27.XII.1968; 標高80m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 27.XII.1968
- 73 神奈川県川崎市五力田 (神奈川県川崎市麻生区五力田) 標高70m, クスギ・コナラ二次林, 1♀, 6.III.1966; 標高80m, アズマネザサ草原, 1♂1♀, 28.XII.1968
- 74 東京都町田市能ヶ谷 (東京都町田市能ヶ谷町下能ヶ谷) 標高60m, スギ・ヒノキ植林 (マダケ混), 3♂♂1♀, 30.XII.1968
- 75 東京都町田市広袴 標高80m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 30.XII.1968; 神奈川県川崎市片平 (神奈川県川崎市麻生区片平) 標高80m, アズマネザサ草原, 1♀, 28.XII.1968
- 76 東京都南多摩郡稲城町平尾 (東京都稲城市平尾) 標高100m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 28.XII.1968
- 77 神奈川県川崎市柿生 (神奈川県川崎市麻生区細山) 標高100m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 1.III.1964
- 78 東京都南多摩郡稲城町 (東京都稲城市百村) 標高100m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 28.XII.1968
- 79 東京都南多摩郡稲城町坂浜 (東京都稲城市坂浜) 標高100m, クスギ・コナラ二次林, 2♂♂, 4.XII.1966; 標高120m, クスギ・コナラ二次林, 1♂, 4.XII.1966

- 80 東京都南多摩郡稲城町大丸 (東京都稲城市米軍補給施設側道) 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 7♂♂15♀♀, 2. XII.1966; 稲城町上谷 (東京都稲城市坂浜) 標高120m, クヌギ・コナラ二次林 (ススキ混), 1♂♂4♀♀, 4. XII.1966
- 81 神奈川県川崎市黒川 (神奈川県川崎市麻生区黒川) 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 8♂♂8♀♀, 4. XII.1966; 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂, 19.II.1967; 東京都南多摩郡多摩町瓜生 (東京都多摩市永山) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 4♂♂2♀♀, 12.III.1967; 多摩町船ヶ台 (多摩市連光寺) 標高100m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂2♀♀, 12.III.1967
- 82 東京都町田市入谷戸 (東京都町田市真光寺) 標高100m, スギ・ヒノキ植林, 1♂♂2♀♀, 30.XII.1968; 標高120m, スギ・ヒノキ植林 (スダジイ混), 1♀, 30.XII.1968
- 83 東京都南多摩郡多摩町青木葉 (東京都多摩市鶴牧) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂1♀, 19.II.1967
- 84 東京都南多摩郡多摩町乞田 (東京都多摩市乞田) 標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂7♀♀, 26.II.1967; 標高120m, スギ・ヒノキ植林, 3♂♂5♀♀, 26.II.1967; 谷戸根 (多摩市諏訪) 標高120m, ススキ草原, 1♀, 26.II.1967; 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂1♀, 26.II.1967; 標高120m, ススキ草原, 1♂♂3♀♀, 26.II.1967; 榎木町日陰 (八王子市東中野) 標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 26.II.1967
- 85 東京都日野市倉沢 (東京都多摩市百草) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林 (アカマツ混), 4♂♂, 24. III.1967; 標高100m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂7♀♀, 24. III.1967
- 86 東京都日野市程久保下 (東京都多摩市明星大学キャンパス) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂, 24. III.1967
- 87 東京都日野市程久保上 (東京都日野市程久保) 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 10♂♂8♀♀, 21.III.1967
- 88 東京都南多摩郡袖木町越野 (東京都八王子市越野) 標高160m, アカマツ林 (カエデs p.混), 1♀, 21.III.1967; 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 4♀♀, 21.III.1967
- 89 東京都八王子市長沼 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 24.III.1967
- 90 東京都南多摩郡袖木町岸耕地 (東京都八王子市中山) 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 3♂♂1♀, 25.III.1967
- 91 東京都南多摩郡袖木町伊丹木谷戸 (東京都八王子市南大沢) 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂3♀♀, 21.III.1967
- 92 東京都町田市久保谷戸 (東京都町田市小山町久保谷戸) 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂, 21.III.1967; 標高190m, クヌギ・コナラ二次林 (アカマツ混), 3♂♂3♀♀, 21.III.1967
- 93 東京都南多摩郡袖木町岸耕地 (東京都八王子市片倉町東京工科大学キャンパス) 標高200m, アカマツ林, 1♂♂2♀♀, 25.III.1967; 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 7♂♂4♀♀, 25.III.1967
- 94 東京都町田市相原町中村 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 26.III.1967; 相原町開都 標高180m, スギ・ヒノキ植林, 1♂♂1♀, 26.III.1967
- 95 東京都八王子市宇津貫町閑道 (東京都八王子市宇津貫町閑道) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂, 26.III.1967
- 96 東京都八王子市片倉町菖蒲谷 (東京都八王子市みなみ野) 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 3♀♀, 29.III.1967; 標高170m, アラカシ・シラカシ林, 1♀, 29.III.1967
- 97 東京都八王子市大船町 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂2♀♀, 26.III.1967
- 99 東京都町田市相原町鍛冶谷 標高200m, クヌギ・コナラ二次林, 3♂♂, 6.XI.1969
- 100 東京都八王子市寺田町中寺田 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 3♂♂3♀♀, 26.III.1967, 6.XI.1969; 標高180m, モウソウ竹林, 1♀, 6.XI.1969
- 102 東京都八王子市館町四ツ谷 標高170m, ススキ草原, 4♂♂3♀♀, 29.III.1967; 館町殿入 標高180m, クヌギ・コナラ二次林 (シラカシ混), 2♂♂2♀♀, 29.III.1967
- 103 東京都八王子市寺田町上寺田 (東京都八王子市寺田町法政大学キャンパス) 標高200m, スギ・ヒノキ植林, 1♂♂, 29.III.1967

エサキオサムシ *Carabus (Ohomopterus) albrechti esakianus* (NAKANE) 54♂♂45♀♀

- 94 東京都町田市相原町開都 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 26.III.1967; 標高180m, スギ・ヒノキ植林, 1♀, 26.III.1967
- 97 東京都八王子市大船町 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂, 26.III.1967
- 98 東京都町田市相原町 標高220m, クヌギ・コナラ二次林 (スギ混), 1♀, 6.XI.1969
- 99 東京都町田市相原町鍛冶谷標高200m, クヌギ・コナラ二次林, 14♂♂9♀♀, 6.XI.1969
- 100 東京都八王子市寺田町中寺田 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 32♂♂26♀♀, 26.III.1967, 6.XI.1969; 標高180m, スギ・ヒノキ植林, 3♂♂, 6.XI.1969
- 101 東京都八王子市寺田町下寺田 標高140m, モウソウ竹林, 1♂♂, 29.III.1967
- 102 東京都八王子市館町四ツ谷 標高170m, ススキ草原, 1♂♂5♀♀, 29.III.1967; 館町殿入 標高180m, クヌギ・コナラ二次林 (シラカシ混), 2♂♂1♀, 29.III.1967

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus procerulus* (CHAUDOIR) 33♂♂29♀♀

- 19 神奈川県横浜市港北区台村町 (神奈川県横浜市緑区台村町) 標高40m, スギ・ヒノキ植林 (シラカシ混), 1♂♂, 2.III.1969
- 23 神奈川県横浜市神奈川区菅田町 標高60m, スギ・ヒノキ植林, 1♂♂1♀, 11.III.1969; 標高40m, アカマツ林, 1♂♂, 11.III.1969; 標高20m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂♂, 11.III.1969

- 30 神奈川県川崎市越路(神奈川県川崎市幸区南加瀬夢見ヶ崎公園)標高30m, 公園草地, 1♀, 26.XI.1966; 標高30m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂2♀, 14.I.1967
- 44 神奈川県横浜市港北区茅ヶ崎(神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎町)標高10m, ススキ草原, 1♂, 3.XII.1967
- 47 神奈川県横浜市港北区上サ(神奈川県横浜市都筑区荏田南町)標高60m, スギ・ヒノキ植林, 1♀, 28.XII.1967; 港北区市ヶ尾町(神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町)標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 28.XII.1967
- 51 神奈川県横浜市港北区恩田町(神奈川県横浜市青葉区桂台)標高60m, クヌギ・コナラ二次林(ヒノキ混), 1♀, 25.II.1968
- 52 神奈川県横浜市港北区奈良町(神奈川県横浜市青葉区すみよし台)標高60m, 畑地, 1♀, 25.II.1968; 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 25.II.1968
- 56 東京都町田市野津田町 標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 5.I.1969
- 57 東京都町田市下小山田町大久保(東京都町田市下小山田町東京国際ゴルフ場)標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 7.II.1969; 下小山田町堂谷 標高100m, アカマツ林, 1♂1♀, 7.II.1969
- 58 東京都町田市下小山田町中谷戸 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 7.II.1969
- 60 神奈川県川崎市川井田(神奈川県川崎市麻生区岡上)標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 11.III.1968
- 61 神奈川県横浜市港北区奈良町北ヶ谷(神奈川県横浜市青葉区奈良町北ヶ谷)標高50m, アカマツ林(アズマネザサ混), 1♂, 11.III.1968
- 64 神奈川県横浜市港北区荏田(神奈川県横浜市青葉区新石川)標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 21.I.1968
- 66 神奈川県川崎市久地(神奈川県川崎市高津区久地)標高50m, アズマネザサ草原, 1♀, 6.I.1968
- 68 神奈川県川崎市枳形山(神奈川県川崎市多摩区枳形山)標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 15.III.1968
- 71 神奈川県川崎市仙石(神奈川県川崎市菅仙石)標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 27.XII.1968; 多摩区生田(多摩区生田日本女子大学キャンパス)標高80m, スギ・ヒノキ植林, 1♂, 27.XII.1968
- 72 神奈川県川崎市金程(神奈川県川崎市麻生区金程)標高80m, クヌギ・コナラ二次林(アラカシ混), 1♂, 27.XII.1968
- 73 神奈川県川崎市五力田(神奈川県川崎市麻生区五力田)標高70m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 6.III.1966; 標高80m, アズマネザサ草原, 1♂1♀, 27.XII.1968
- 74 東京都町田市能ヶ谷(東京都町田市能ヶ谷町下能ヶ谷)標高60m, スギ・ヒノキ植林(マダケ混), 2♂♂, 30.XII.1969
- 75 神奈川県川崎市片平(神奈川県川崎市麻生区片平)標高80m, アズマネザサ草原, 1♂, 28.XII.1968
- 76 神奈川県川崎市栗木(神奈川県川崎市麻生区栗木)標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 28.XII.1968
- 78 東京都南多摩郡稲城町(東京都稲城市百村)標高100m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 28.XII.1968; 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 28.XII.1968
- 80 東京都南多摩郡稲城町大丸(東京都稲城市米軍補給施設側道)標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 2.XII.1966; 稲城町坂浜(稲城市坂浜)標高120m, ススキ草原, 1♀, 2.XII.1966; 標高120m, クヌギ・コナラ二次林(ススキ混), 1♀, 4.XII.1966
- 81 東京都南多摩郡多摩町瓜生(東京都多摩市永山)標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 12.III.1967
- 82 東京都町田市入谷戸(東京都町田市真光寺)標高100m, スギ・ヒノキ植林, 2♂♂, 30.XII.1968
- 84 東京都南多摩郡多摩町乞田(東京都多摩市乞田)標高80m, クヌギ・コナラ二次林, 3♂♂1♀, 26.II.1967; 多摩町谷戸根(多摩市諏訪)標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 26.II.1967
- 88 東京都南多摩郡柚木町越野(東京都八王子市越野)標高160m, アカマツ林(カエデs.p.混), 1♂1♀, 21.III.1967; 標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 21.III.1967
- 90 東京都南多摩郡柚木町岸耕地(東京都八王子市中山)標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 2♀♀, 25.III.1967
- 91 東京都南多摩郡柚木町伊丹木谷戸(東京都八王子市南大沢)標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 21.III.1967
- 96 東京都八王子市片倉町菖蒲谷(東京都八王子市みなみ野)標高140m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 29.III.1967
- 100 東京都八王子市寺田町中寺田 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 26.III.1967; 標高180m, モウソウ竹林, 1♂, 6.XI.1969
- 101 東京都八王子市寺田町下寺田 標高140m, スギ・ヒノキ植林, 1♀, 29.III.1967
- 102 東京都八王子市館町四ツ谷 標高170m, ススキ草原, 1♀, 29.III.1967

ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides* SCHAUM 25♂♂25♀♀

- 11 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今宿(神奈川県横浜市旭区今川町)標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 26.III.1969
- 21 神奈川県横浜市港北区上山町(神奈川県横浜市緑区上山町)標高60m, スギ・ヒノキ植林, 1♂, 8.III.1969
- 24 神奈川県横浜市神奈川区菅田町標高40m, スギ・ヒノキ植林(シラカシ混), 1♀, 8.III.1969
- 25 神奈川県横浜市港北区鳥山町 標高40m, アカマツ林(スダジイ混), 1♀, 11.III.1969
- 26 神奈川県横浜市神奈川区羽沢町 標高60m, ススキ草原, 1♀, 11.III.1969
- 28 神奈川県横浜市神奈川区菅田町 標高20m, クヌギ・コナラ二次林(伐採跡), 1♂, 11.III.1969; 標高20m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂1♀, 11.III.1969
- 33 神奈川県川崎市野川(神奈川県川崎市宮前区野川)標高20m, 畑地, 1♀, 6.II.1966
- 50 神奈川県横浜市港北区西八朔町(神奈川県横浜市青葉区つつじが丘)標高50m, ススキ草原, 2♀♀, 24.II.1966

- 53 神奈川県横浜市港北区鍛冶谷 (神奈川県横浜市青葉区恩田町) 標高60m, クヌギ・コナラ二次林 (ハンノキ混), 1♂1♀, 7.III.1968
- 55 東京都町田市山崎町今井谷戸 標高100m, スギ・ヒノキ植林, 1♂, 2.II.1969
- 59 東京都町田市三輪町 標高60m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 11.III.1968
- 70 神奈川県川崎市上麻生 (神奈川県川崎市麻生区上麻生) 標高70m, クヌギ・コナラ二次林 (スギ混), 1♂, 14.III.1968; 標高60m, シラカシ・アラカシ林, 1♀, 14.III.1968
- 71 神奈川県川崎市仙石 (神奈川県川崎市菅仙石) 標高40m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 27.XII.1968
- 80 東京都南多摩郡稲城町大丸 (東京都稲城市米軍補給施設側道) 標高120m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂1♀, 2.XII.1966
- 81 東京都南多摩郡多摩町瓜生 (東京都多摩市永山) 標高100m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 19.II.1967
- 83 東京都南多摩郡多摩町青木葉 (東京都多摩市鶴牧) 標高120m, クヌギ・コナラ二次林 (アカマツ混), 1♂, 22.XII.1967; 多摩町瓜生 (東京都多摩市落合) 標高100m, クヌギ・コナラ二次林 (ススキ混), 1♀, 19.II.1967
- 98 東京都町田市相原町 標高180m, クヌギ・コナラ二次林, 1♀, 6.XI.1969
- 99 東京都町田市相原町鍛冶谷 標高200m, クヌギ・コナラ二次林, 2♂♂2♀♀, 6.XI.1969
- 100 東京都八王子市寺田町中寺田 標高160m, クヌギ・コナラ二次林, 1♂, 26.III.1967
- 104 東京都南多摩郡多摩町多摩川 (東京都多摩市多摩川) 標高40m, ススキ草原, 2♂♂, 24.XII.1966
- 105 東京都南多摩郡多摩町多摩川 (東京都多摩市大栗川) 標高70m, ススキ草原, 4♂♂4♀♀, 12.III.1966
- 106 東京都府中市多摩川 標高40m, ススキ草原, 5♂♂5♀♀, 24.XII.1966

<参考文献>

- 国土地理院 1968. 5万分の一地形図：八王子；1968. 5万分の一地形図：東京西南部；1968. 20万分の一地形図：東京；1968. 5万分の一地形図：横浜。
- 平野幸彦 2004. 神奈川県昆虫誌 (II)：359-362 神奈川県昆虫談話会
- 石川良輔 1960. 関東及び近接諸県に産するオサムシ, INSECT MAGAZINE, 49：21-30
- 1985. オサムシ科 (オサムシ亜科), 原色日本甲虫図鑑 (II)：14-54
- 1991. オサムシを分ける錠と鍵, 八坂書店
- 井村有希, 水沢清行 1996. 世界のオサムシ大図鑑, むし社
- 松本堅一 1972. 多摩段丘におけるオサムシ族の分布について, 昆虫学評論, 24 1/2：62-68
- 宮脇 昭 他 1967. ヤブツバキクラス域の代償植生, 原色現代科学大事典, 3植物：82-161, 学研
- 西川協一 1960. 関東地方におけるオサムシ調査の現状, INSECT MAGAZINE, 49：1-20
- 大木 裕 他 2000. 横浜国立大学構内の昆虫目録 (I) 横浜国立大学環境科学研究センター紀要, 26-1:123~134
- 大木 裕 2005. 横浜市北部周辺オサムシ科リスト.未発表

三重県で採集されたアリヅカムシ

A List of Pselaphine Species (Coleoptera, Staphylinidae) Collected from Mie Prefecture,

Honshu, Japan

Shuhei NOMURA and Katsumi AKITA

野村周平

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部

秋田勝己

〒514-1108 三重県津市久居射場町66, D-304

三重県からは、従来少数のアリヅカムシしか知られていない。最初の記録は JEANNEL (1958) により、伊勢島路山から記載された *Coryphomus brevispina* であろう。日本産の本属は JEANNEL (1959) により *Coryphomodes* とされ、また、本種は NOMURA (2001a) により、*C. spinicollis* (SHARP) フタアナムネトゲのシノニムとされた。その後、NOMURA (1991) が紀伊長島からナガスネを記録し、LÖBL et al. (1998) が美杉村平倉からスベマルムネを報じている。さらに、河上 (2002) が櫛田川河口域から、本州初記録のタイワンヒゲブトエンマアリヅカムシを含む 4 種を報告したことが注目される。

他に同好会誌などに報告されたものもあるが、ここでは再録しない。

筆者の一人、秋田は、地元三重県内各地において甲虫の採集を行い、多数の標本を得た。野村は、1997年、平倉で開催された日本鞘翅学会採集例会の機会を利用して、同地で採集を行い、いくつかの大変興味深い種を得た。また、川瀬英夫氏、ならびに川添昭夫氏の採集になる標本をかなり以前にいただいている。採集した時点からずいぶん時間がたってしまったが、以上の結果をとりまとめて報告したい。数年前に野村は、四日市市の横関秀行氏より、多数の標本を拝受した。この中にも大変貴重な資料が含まれているが、なにぶんあまりに多数にわたるため、同定がまだ完了していない。完了後にその結果は改めて報告したい。

本文に入るに先立ち、貴重な標本を恵与された川瀬英夫氏、ならびに川添昭夫氏に対し、厚く御礼申し上げる。以下の目録において、雌個体のみのため、種の特定ができないものについては、sp.以下の番号をつけず、種の番号を与えずに、※印で示す。リスト中の採集地名は市町村合併以前の古いままで示しているが、2007年2月現在では次のように変更されている：員弁郡員弁町→いなべ市；員弁郡藤原町→いなべ市；名賀郡青山町→伊賀市；一志郡美杉村→津市。採集者については以下のように略記する：秋田勝己 (KA)、野村周平 (SN)。

STAPHYLINIDAE ハネカクシ科 PSELAPHINAE アリヅカムシ亜科

Euplectitae ナガアリヅカムシ上族

1. *Bibloporus* sp. 1 (図1)

本属は日本から *B. japonicus* K. SAWADA ヤマトキカワなど数種が知られているが、本種は未記載種と思われる。本属は通常、倒木樹皮下などに見られる。

<採集データ> 1♀, 一志郡美杉村平倉 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN.

2. *Acetalius dubius* SHARP ハラフトアリヅカムシ (図2)

常緑樹林の落葉土中に生息し、九州では普通だが、近畿以東では少ない。

<採集データ> 1♀, 一志郡美杉村平倉 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN; 1♀, 同 (600m), 8. vi. 1997, SN.

3. *Philoscotus longulus* K. SAWADA ナガオチバアリヅカムシ

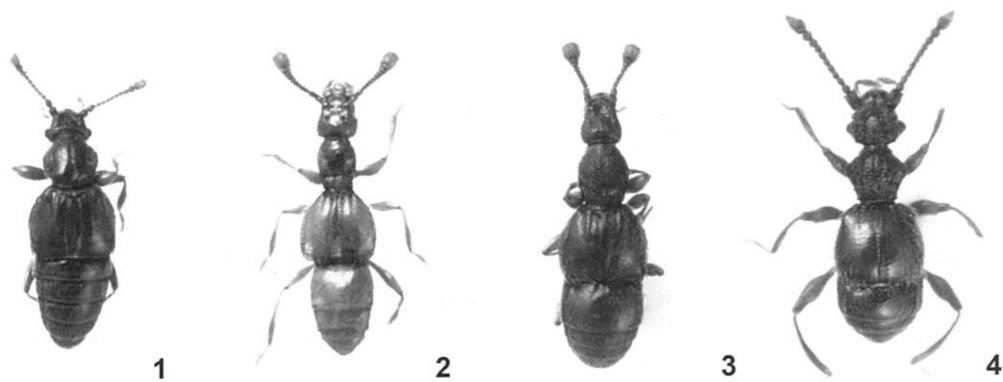
中部から中国、四国地方にかけて分布する。

<採集データ> 1♀, 尾鷲市九木崎, 29. vi. 1998, SN.

4. *Philoscotus sylvestris* NOMURA モリオチバアリヅカムシ (図3)

兵庫県音水溪谷から記載された種で、近畿地方一円に分布するがあまり多くない。

<採集データ> 2♀, 一志郡美杉村平倉 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN.



Batrisitae ムネトゲアリヅカムシ上族

5. *Batrisodes* (*Excavodes*) sp. 1 (*caviceps* group)

前種によく似ているが明らかに小型である。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 17. vi. 1995, KA.

6. *Batrisodes* (*Excavodes*) sp. 2 (*dorsalis* group)

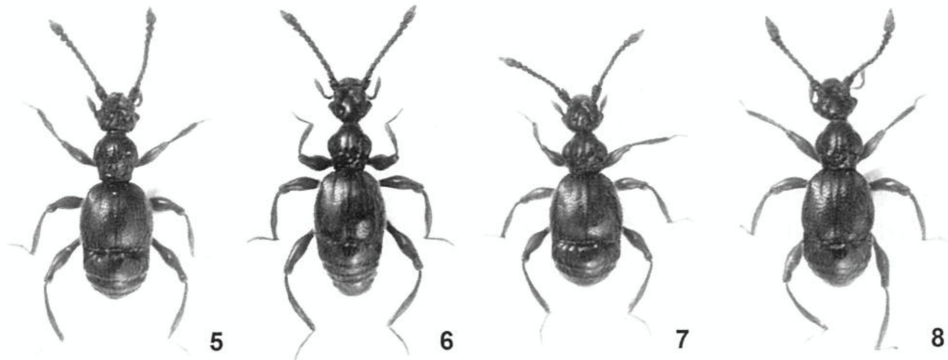
B. dorsalis JEANNEL タカオトゲの種群に属する。この種群は、中部地方以東では東京都高尾山から記載された *dorsalis* のタイプに一致するが、近畿以西では軽微な地理的変異が見られ、明らかな未記載の別種も数種発見されている。しかしながら、本属では雄交尾器が単純で、種の境界を見極めることが非常に難しい。このような状況は、以下に挙げる *ornatifrons* 種群や、*stipes* 種群にも当てはまる。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 8. vi. 1997, SN; 2♀, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA.

7. *Batrisodes* (*Excavodes*) sp. 3 (*ornatifrons* group) (図 4)

日光中禅寺湖から記載された *B. ornatifrons* (SHARP) ニッコウコオニ種群の一員である。

<採集データ> 1♂, 伊勢市五十鈴川 (40-300m), 25. v. 1997, KA; 1♂1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 8. iii. 1997, KA; 1♀, 同, 29. vi. 1998, SN; 1♂, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

8. *Batrisodes* (*Excavodes*) *caviceps* (SHARP) オサムネトゲアリヅカムシ (図 5)

本州、四国、九州から知られるが比較的まれな大型種である。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

9. *Batrisodes* (*Pubimodes*) sp. 1

本亜属は日本から 2種が知られる。山地の朽木や樹皮下から発見されることが多い。下の記録もかなり腐朽の進んだ倒木の樹皮下から得られた。

<採集データ> 13♂5♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

10. *Batrisodellus longulus* (JEANNEL) ナガムネトゲアリヅカムシ (図 6)

大型で、次種と同じく好蟻性の種である。以下の個体はクロヤマアリのコロニー中から発見された。岐阜県金華山から記載され、中部、近畿地方から知られているが、個体数はあまり多くない。和名は野村 (2002b) によって与えられている。

<採集データ> 1♂1♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

11. *Batrisodellus laticollis* (JEANNEL) ツノブトゲアリヅカムシ (和名新称) (図 7)

本種以下 3種は JEANNEL (1958) によって、*Basitrodes* 属の種として記載されたが、NOMURA (2002, 2003) による *Basitrodes* 属の再検討の結果、本属へ移すのが妥当であるとされた。本種の雄は触角第 1節が先端へ向かって強く膨らみ、太い角状を呈することで、他と容易に区別できる。九州から

記載されたが、四国、本州西半部にも分布する。野村・山本(2000)で“*Batrisodellus* sp. 1”としたのは本種であった。以下の記録のように倒木の樹皮下からよく採集されるが、このような環境下でよく見られるオオハリアリとも関係があるらしい。

<採集データ> 5♂10♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

12. *Batrisodellus cristatus* (JEANNEL) トサカトゲアリヅカムシ (図8)

前種に酷似するが、雄の触角第1節は太くならず雌と同じ長さである。雄の中脚腿節は前方へ向かって軽く湾曲する。日光中禅寺湖から記載され、野村(2002a)によって和名が与えられた。前種ほど普通ではなく、他に千葉県などから採集されているのみである。以下の個体は多数の前種に混じって発見された。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

13. *Batristilbus politus* (SHARP) エグリチイロアリヅカムシ

大型できわめて特徴的な種である。ハヤシケアリなどの巣に進入する好蟻性の種だが、落葉土中から単独で採集されることも多い。

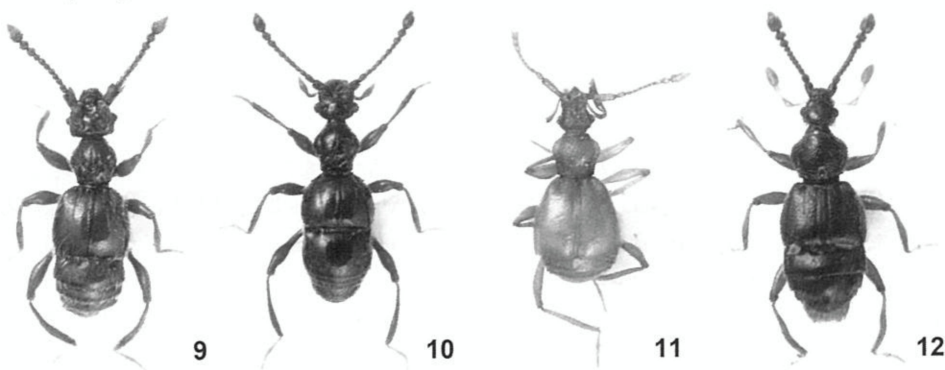
<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 4. vii. 1993, KA; 1♂1♀, 同, 8. vi. 1997, SN.

14. *Petaloscapus hirsutus* TANOKUCHI ハママツムネトゲアリヅカムシ (図9)

本属は日本全国に40種以上が分布する非常に大きな属である。雄の触角第1節や前頭部に種の特徴が現れるが、雄交尾器が最良の決め手となる。本種は和名のとおり、静岡県浜松市から記載され、現在までのところ、東海地方のみから発見されている。

<採集データ> 2♂3♀, 久居市戸木敏太神社(25m), 28. x. 1995, KA.

15. *Petaloscapus* sp. 1



紀伊半島の本属は、NOMURA(2001b)が示したエラハリムネトゲのほか、数種の未記載種が存在する。本種は以下の記録のほか、和歌山県本宮町から得られている。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉(550-900m), 17. vi. 1995, KA; 3♂5♀, 同(800-1,100m), 8. vi. 1997, SN.

※*Petaloscapus* sp.

<採集データ> 1♀, 津市片田井戸町(80m), 22. xi. 1994, KA.

16. *Tribasodes* sp. 1

ツノプトゲなどととも、倒木樹皮下から採集された。

<採集データ> 2♂, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

17. *Batriscenaulax longipes longipes* JEANNEL ナガスネアリヅカムシ

北海道から九州まで分布し、二次林のやや乾燥した落葉土中に多数生息する普通種である。

<採集データ> 2♂, 尾鷲市三木崎(50-300m), 8. iii. 1997, KA.

18. *Arthromelodes gyoja* NOMURA ギョウジヤヒサゴアリヅカムシ (和名新称) (図10)

本属は雌の交尾器骨化部が非常によく発達するため、雌個体のみでも種の同定が可能である。本種は奈良県行者還岳から記載され、近似種の *A. kiiensis* NOMURA キイヒサゴアリヅカムシ (和名新称) とともに紀伊半島一帯に分布する。

<採集データ> 1♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN; 1♀, 同 (550-900m), 17. v. 1997, KA.

19. *Batrisceniola dissimilis* (SHARP) アナズアリヅカムシ

本州、四国に広く分布し、低山地から山地の落葉広葉樹林に最も多く産する普通種である。

<採集データ> 4♂11♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN; 1♂, 同 (550-900m), 3. v. 1994, KA; 3♀, 同 (550-900m), 14. x. 1995, KA; 2♂4♀, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA; 6♂3♀, 同 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN; 2♂1♀, 同 (600m), 8. vi. 1997, SN.

Goniaceritae オノヒゲアリヅカムシ上族

20. *Takaorites* sp. 1

本属の種は溪流そばの湿った落葉中や、砂の多く混じった土壤中に生息するものが多い。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉 (600m), 8. vi. 1997, SN.

21. *Triomicrus protervus* (SHARP) マルムネアリヅカムシ

本州北端から九州南部にいたるまで、森林土壌中にきわめて普通に産する種である。

<採集データ> 4♀, 尾鷲市九木崎, 29. vi. 1998, SN; 1♂4♀, 久居市戸木敏太神社 (25m), 28. v. 1995, KA; 1♀, 員弁郡員弁町市之原, 30. vii. 1961, A. KAWASE; 3♀, 同, 7. vi. 1997, SN; 1♀, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA; 1♂, 同 (550-900m), 1. iv. 1997, KA.

22. *Triomicrus sublaevis* RAFFRAY スベマルムネアリヅカムシ

前種よりも標高の高い地域に分布することが多い。野村の採集品により平倉からすでに記録されている。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 27. v. 1995, KA; 1♂, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA.

23. *Prosthecarthron sauteri* RAFFRAY アシベアリヅカムシ

河川河口域のアシ原に生息し、天気の良い日には干潟の上を歩いているのが見られる。灯火に飛来した例も多い。三重県では河上 (2002) により、やはり櫛田川河口から記録されている。

<採集データ> 1♂7♀, 松阪市松名瀬 (櫛田川河口), 30. v. 1998, KA.

24. *Trissemus alienus* (SHARP) ナミエンマアリヅカムシ

山地溪流から中流域までの砂礫の多い河原に多産する種である。雌にも発達した後翅があり、灯火によく飛来する。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN.

25. *Bryaxis subseriatus* (WEISE) ナガオノヒゲアリヅカムシ

以前には、*B. frontalis* JEANNEL という名前で知られていたが、NOMURA (2006) により、上記の学名に先取されていることが判明した。西日本の森林土壌中に普通に産する種である。

<採集データ> 5♂6♀, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 3. xi. 1995, KA.

26. *Bryaxis sauteri* RAFFRAY ザウターオノヒゲアリヅカムシ

中部、近畿地方に産する種で、産地では個体数が多い。

<採集データ> 1♂1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 22. x. 1995, KA; 1♂5♀, 同 (50-300m), 8. iii. 1997, KA; 1♂1♀, 一志郡美杉村平倉, 7. vi. 1997, SN; 1♂5♀, 同 (550-900m), 14. x. 1995, KA; 1♂, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA; 2♂3♀, 同 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN; 5♀, 同 (600m), 8. vi. 1997, SN.

27. *Bythoxenites* sp. 1

本属は *Bryaxis* 属に似るが、やや細長く、大型～中型で、小顎肢第 4 節が細長い紡錘形ないしは

鎌形になるのが特徴である。雄の性的特徴は触角には現れない。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 3. xi. 1995, KA; 1♀, 同 (600m), 8. vi. 1997, SN.

28. *Bythoxenites* sp. 2 (図11)

前種に似るが, 前頭部が突出するなどの顕著な特徴で区別できる。 *B. japonicus* (NOMURA et YOSHIDA) ホラアナアリヅカムシに近縁の洞窟性種と思われるが, 複眼はほとんど退化していない。

<採集データ> 1♂, 員弁郡藤原町篠立の風穴, 5. xii. 1993, KA.

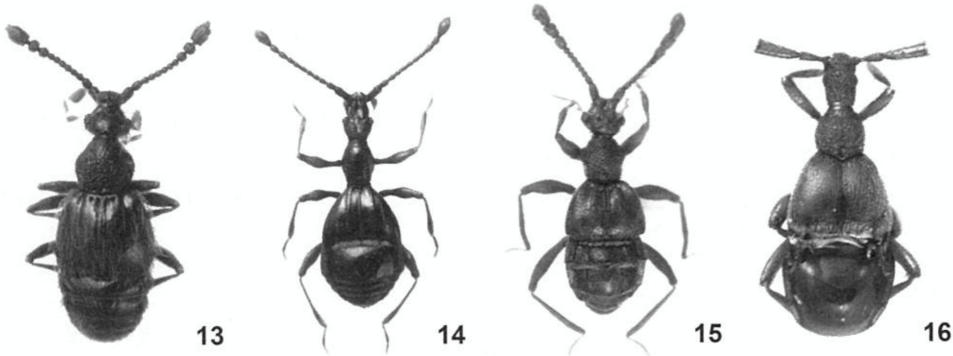
29. *Hyugatychus teizonagatomoi* NOMURA ヒュウガモリアリヅカムシ (図12)

宮崎県から記載された種で, 四国, 九州の分布は知られていたが, 本州からは初めての記録となる。照葉樹林の落葉土中に発見される。

<採集データ> 1♂, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 1. iv. 1995, 川瀬英夫.

30. *Tainochus insulicola* (NOMURA et LEE) シمامクゲアリヅカムシ (図13)

本州全域ならびに韓国本土および済州島から知られる。分布は広いが, 個体数は多くない。



<採集データ> 1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 22. x. 1995, KA; 2♀, 一志郡美杉村平倉 (600m), 8. vi. 1997, SN

Pselaphitae ヒゲナガアリヅカムシ上族

31. *Pselaphogenius spinifer spinifer* (K. SAWADA) トゲヒゲナガアリヅカムシ (図14)

本属は東北以南の日本に多数の種が分布し, いくつかの種ではきわめて著しい地域変異が見られる。近畿地方には少なくとも5種が発見されており, 本種や *P. yosii* K. SAWADA ヨシイヒゲナガには別亜種が認められる。本種は近畿地方一円に分布し, 次種よりも低地に生息するようである。原名亜種のタイプ産地は大阪府箕面勝尾寺であるが, この亜種の分布が最も広い。和泉葛城山から亜種 *uncinatus*, 大峰山系弥山の頂上部から亜種 *tuberculipenis* が知られるが, 紀伊半島には, 他にも別亜種と認められそうな個体群が存在する。和名は野村 (2002b) による。

<採集データ> 1♂3♀, 一志郡美杉村平倉 (800-1,100m), 8. vi. 1997, SN.

32. *Labomimus* sp. 1

本属は従来, 本州東部に産する *L. reitteri* SHARP アシナガと, 四国に産する *L. shibatai* K. SAWADA オオアシナガの2種が日本から知られていたが, 西日本から琉球列島にかけて, 約10種が存在する。本種はオオアシナガに近縁な種で, 紀伊半島からのみ採集されている。

<採集データ> 2♂2♀, 一志郡美杉村平倉, 8. vi. 1997, SN; 1♂2♀, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA.

33. *Labomimus* sp. 2

本種は, アシナガとも, オオアシナガとも異なり, 雄後頬部の張り出しが先端で強く上反するという特徴でまとめられる群に属する。東海地方のみから得られている。

<採集データ> 1♀, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 14. x. 1995, KA; 2♂, 同 (550-900m), 3. xi. 1995, KA.

34. *Lasinus monticola* K.SAWADA ヤマオオトゲアリヅカムシ

本種と次種は互いによく似ているが、触角の特徴により、雌雄とも判別することができる。生息環境もほぼ同じで、一箇所から双方の種が得られることもまれではない。

<採集データ> 1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 22. x. 1995, KA; 2♂, 同 (50-300m), 8. iii. 1997, KA; 1♂1♀, 同九木崎, 29. vi. 1998, SN; 1♂, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 29. iv. 1997, KA.

35. *Lasinus* sp. 1

本種は従来, *L. spinosus* SHARP オオトゲと混同されてきたが, オオトゲは九州のみに分布し, 本種は本州に広く分布する。

<採集データ> 1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 22. x. 1995, KA; 1♂, 久居市戸木敏太神社 (25m), 28. x. 1995, KA; 1♀, 員弁郡員弁町市原, 30. vii. 1961, 川添昭夫; 1♀, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 10. vi. 1995, KA; 1♀, 名賀郡青山町西青山 (350-450m), 14. viii. 1993, KA.

36. *Tyrus* sp. 1

本種は *T. japonicus* SHARP によく似るが, 中脚転節の突起や雄交尾器の形状が異なる。本種のほうが分布は広く, 東北地方から九州南部まで点々と採れている。

<採集データ> 1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 8. iii. 1997, KA.

37. *Raphitreus speratus* (SHARP) ヒゲプトエクボアリヅカムシ (図15)

西日本に広く分布する種で, 通常は朽木中や樹皮下で得られ, あまり普通な種ではないが, なぜか近畿地方では照葉樹林の土壌中に普通に産する。

<採集データ> 2♂, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 8. iii. 1997, KA; 1♂, 久居市戸木敏太神社 (25m), 28. x. 1995, KA; 2♂2♀, 一志郡美杉村平倉 (550-900m), 14. x. 1995, KA.

Clavigeritae ヒゲプトアリヅカムシ上族

38. *Diartiger fossulatus ispartae* (KARAMAN) コヤマトヒゲプトアリヅカムシ中部近畿亜種

ケアリ属のアリの巣に多く見られる最もポピュラーな好蟻性甲虫である。本種は日本および韓国に分布し, 7亜種に分けられている。本亜種は富士箱根地域以西, 鳥取県付近まで分布が知られる。

<採集データ> 2♀, 津市片田井戸町 (80m), 22. xi. 1994, KA; 1♀, 尾鷲市三木崎 (50-300m), 22. x. 1995, KA; 1♂1♀, 久居市戸木敏太神社 (25m), 28. x. 1995, KA; 5♂4♀, 一志郡美杉村平倉, 8. vi. 1997, SN; 1♀, 同 (550-900m), 29. iv. 1997, KA.

39. *Diartiger kubotai* NOMURA クボタヤマトヒゲプトアリヅカムシ (図16)

前種に似るが, 腹部背面基部の大凹陷が横長である点で区別できる。関東以西, 九州北部まで分布し, 生息環境は前種とまったく同じで, 1つのアリの巣から両種が発見されることもある。以下の記録もその例にもれない。

<採集データ> 1♂, 一志郡美杉村平倉, 8. vi. 1997, SN.

以上, 39種を記録した。

<引用文献>

- 河上康子 (2002) 三重県榑田川河口からのタイワンヒゲプトエンマアリヅカムシの記録. 甲虫ニュース, (140) : 11.
 JEANNEL, R. (1958) Révision des Pselaphides du Japon. Mém. Mus. Nat. Hist., Paris, (A), 18: 1-138.
 JEANNEL, R. (1959) Sur les pselaphides (Coleoptera) de l'Inde septentrionale. Bull. Brit. Mus. (Nat. Hist.), Ent., 9: 401-456.
 LÖBL, I, S. A. KURBATOV & S. NOMURA (1998). A revision of the genus *Triomicrus* SHARP (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 24: 69-105.
 NOMURA, S. (1991). Systematic study on the genus *Barrisoplisus* and its allied genera from Japan. Esakia, Fukuoka, (30) : 1-462.
 NOMURA, S. (2001a). Taxonomical review and a list of the pselaphine species (Staphylinidae, Pselaphinae) known from Japan. Elytra, Tokyo, 29: 141-161.
 NOMURA, S. (2001b). Taxonomical notes on *Petaloscapus temporalis* JEANNEL, and its new allied species (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae).

- phinae) from Honshu and Shikoku, Japan. Spec. Publ. Japan Coleopt. Soc., Osaka, (1) : 309-316.
- NOMURA, S. (2002). A taxonomic revision of the genus *Basitrodes* (Staphylinidae, Pselaphinae), part 1. *Basitrodes oscillator* group. Elytra, Tokyo, 30: 320-330.
- NOMURA, S. (2003). A taxonomic revision of the genus *Basitrodes* (Staphylinidae, Pselaphinae), part 2. *Basitrodes vestitus* group. Elytra, Tokyo, 31: 175-183.
- NOMURA, S. (2006). Taxonomical notes on three pselaphine species (Staphylinidae, Pselaphinae) described by WEISE, 1877 from Japan. Elytra, Tokyo 34: 99-102.
- 野村周平 (2002a) アリヅカムシ類. 栃木県自然環境調査研究会土壤動物部会編, 栃木県自然環境基礎調査「とちぎの土壤動物」, 晃南印刷 (宇都宮市), pp. 263-278.
- 野村周平 (2002b) 京都府で採集されたアリヅカムシ. ねじればね, (101) : 1-15.
- 野村周平・山本栄治 (2000) 小田深山とその周辺のアリヅカムシ相. 山本栄治ら編, 小田深山の自然 II, 愛媛県小田町, pp. 325-351.

マスゾウメクラチビゴミムシの追加記録

Additional Records of *Suzuka masuzoi* S. UÉNO, 1989 from Fukui Prefecture

Kenji KITAYAMA

北山健司

〒573-0066 大阪府枚方市伊加賀西町2-6-410

マスゾウメクラチビゴミムシ *Suzuka masuzoi* S. UÉNO, 1989 (写真 1) は, ナガチビゴミムシ属の新種の探索時に追手門学院大学の西川喜朗博士により採集された 1♂ に基づいて記載されたサメメクラチビゴミムシ属 (Genus *Suzuka*) の第 2 番目の種で, タイプ標本が得られた後に何度か調査が行われたが, いずれも再発見には至っておらず, 原記載以降の記録はない。

そのため, 「福井県レッドデータブック動物編」(福井県, 2002) では, 「環境条件の変化によって, 容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが, 生息状況をはじめとして, ランクを判定するに足る情報が得られていない種」として「要注目」に指定されているほか, 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類」(環境省編, 2006) では 2000 年 4 月公表のレッドリストに絶滅危惧 I 類 (絶滅の危機に瀕している種) として追加されている。筆者らは, 本種のタイプ産地である福井県勝山市一本松湯ノ谷において下記のとおり本種を採集しているので報告する。本報告をまとめるにあたり, 記録の公表を快諾された京都大学の芦田久博士, 兵庫県尼崎市の齋藤琢己氏, 和歌山県白浜町の田中昭太郎氏, 兵庫県西宮市の森 正人氏に深謝する。

<採集記録>

10♂♂, 8♀♀, 福井県勝山市一本松湯ノ谷, 9.VI.2001, 北山健司・齋藤琢己採集; 16exs,

16.VI.2001, 北山健司・田中昭太郎・森正人採集; 4exs, 22.VI.2002, 芦田久・北山健司・齋藤琢己採集; 4 exs, 13.X.2002, 芦田久・北山健司・齋藤琢己採集

本種が得られた場所は三頭山北西麓の湯ノ谷左岸 (浄土寺川と湯ノ谷の合流点付近。写真 2 参照) の大規模な斜面崩落地であった。この斜面崩落地は表層 50~100cm 程度の深さまで粘土混じりの砂礫質土が堆積しているものの, それで深は風化母岩層となっており, 巨礫や岩が積み重なる空隙の大きい層となっていた。マスゾウメクラチビゴミムシは植物が生育している部分の深さ 30cm



マスゾウメクラチビゴミムシ





程度の比較的浅い場所(写真3参照. 写真4はその拡大図)にみられ, 土壌中に埋まっている石の裏面を歩いていることが多かった. なお, 写真2に示した場所は, 2001年に法面保護のためにモルタル吹き付け施工が行われて調査が不可能になったため, 2002年の記録は前年の採集・確認場所から少し下流側の小規模な斜面崩落地から採集した.

<文献>

福井県, 2002. 福井県レッドデータブック 動物編. 福井県自然保護課.

環境省(編), 2006. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—5 昆虫類. 財団法人自然環境研究センター.

UÉNO, S.-I., 1989. Discovery of a Second Species of *Suzuka* (Coleoptera, Trechinae) in the Hokuriku District, Central Japan. *J. speleol. Soc. Japan*, 14:15-22.

シャリンバイから採集したシロジュウシホシテントウの飼育記録

The Breeding of *Calvia quatuordecimguttata* (LINNÉ) Collected from *Rhaphiolepis indica* var. *umbellata* in Osaka Prefecture, Kinki District, Japan

Yasuko KAWAKAMI

河上康子

〒569-0826 大阪府高槻市寿町2-30-9

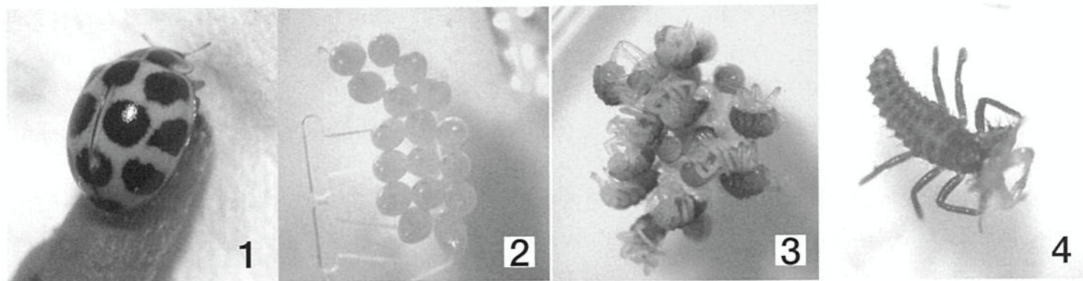
はじめに

シロジュウシホシテントウ *Calvia quatuordecimguttata* (LINNÉ) は, 北アメリカからヨーロッパ, 日本, 台湾, 中国まで広く分布するテントウムシで, 成虫の鞘翅斑紋は地色が褐色の基本型のほかに, 黒色の暗色型, 赤色の紅型の3型がある(佐々治, 1985). 日本では基本型は北海道以南に広く分布するが, 紅型は近畿地方以南にみられ(宮武, 1978), 暗色型は国内での記録例が少ない(宮武, 19-78; 松原, 1987). 本種は近畿地方中部ではおもに山間部から丘陵地に見られ(初宿, 1999; 的場1986), 大阪府下ではこれまで平野部である大阪市内と河内からの記録はない(大阪府, 2000). 筆者は大阪市長居公園と泉南市樽井および歌山市の海岸部において, 本種をシャリンバイの植え込みから採集し, 長居公園の個体から採卵と飼育を行ったのでその記録を報告する. また調査にあたり, 上記の鞘翅斑紋3型が同所的に観察されたので, 成虫の斑紋型もあわせて記録する.

調査地点と飼育結果

2006年5月12日, 大阪市東住吉区長居公園の歩道の植え込みのシャリンバイに, 多数のナミテントウの幼虫・成虫にまじって1個体のシロジュウシホシテントウ(図1)が見つかった. シャリンバイ

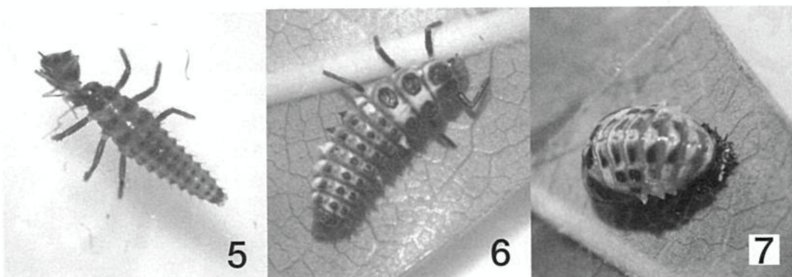
には多くのサツマキジラミ *Psylla satsumensis* KUWAYAMA の幼虫・成虫とワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVERが発生していた。筆者は 2003年春から、当地のシャリンバイの植え込みにおいて、ダンダラテントウのモニタリングを週 1-2回の頻度で通年行っているが、本種の成虫は今回初めて観察し



た。この成虫を持ち帰り、プラスチックシャーレ内で上記2種の発生したシャリンバイの枝を与えて室温で飼育したところ、5月13日に2卵塊 33卵を産付した(図2)。5月16日に31卵が孵化し(図3)、一齢幼虫に引き続きシャリンバイの枝を与えると、サツマキジラミの幼虫(図4)、ワタアブラムシ(図5)のいずれも摂食した。3個体が終齢幼虫(図6)になり1個体が蛹化(図7)したが、その後死亡し羽化にはいたらなかった。

本種成虫は大阪府の山間部においてはクワキジラミ *Anomoneura mori* SCWARZ の発生したクワから見つかる(初宿, 1999)。そこで山間部に生息する本種の食餌を調べるため、大阪府河内長野市天見において、2本のクワに発生しているクワキジラミ幼虫のコロニーを調べたところ、10個体の本種幼虫が見つかった。これら

を持ち帰り、室温でクワキジラミ幼虫を餌として飼育を行ったところ、5個体が蛹化し3個体(紅型2暗色型1)が羽化した。以上の結果から、本種の幼虫は常食食餌の一種であるクワキジラミの幼虫の代わりに、ある程度はサツマキジラミの幼虫やワタアブラムシを利用できると考えられた。



あるクワキジラミの幼虫の代わりに、ある程度はサツマキジラミの幼虫やワタアブラムシを利用できると考えられた。

そこで平野部のシャリンバイをさらに探索したところ、泉南市樽井の海岸部のシャリンバイから本種成虫3個体を採集した。同時に蛹の脱皮殻も観察され、本種がシャリンバイ上で発生していることが推測された。また筆者の過去の採集品を捜した結果、2002年に和歌山市名草の浜のシャリンバイから本種成虫を3個体採集していた。2地点のシャリンバイにはいずれも、サツマキジラミとアブラムシ類(未同定)が多量に発生しており、長居公園と同様に多くのナミテントウの幼虫・成虫が同所的に観察された。またこれまでに唯一大阪府の海岸部で記録された、高石市高砂からの本種成虫(初宿, 2000)は、採集者の山本博子氏によると、シャリンバイの植え込みで越冬していた個体が捕獲された(山本, 私信)。

考察

シャリンバイに発生するサツマキジラミは南方系の種で、1980年代から大阪で見られるようになり、それ以前は分布していなかった(宮武, 私信)。シャリンバイが植え込み材料として多く使われるようになったことと、気候の温暖化の影響で近年増えてきたと考えられる(同上)。本種の常食食餌に関する報告はこれまでに、海外ではリングキジラミとアブラムシ4種が(HODEK et al, 1996)、

国内からはオオトガリキジラミの記録(宮武, 1978)がある。また関東ではクワキジラミの発生木からの採集例(松原, 1987)の他に, 春にキジラミ類の発生したシロダモの新芽に多く見られ(松原, 私信), おそらくシロダモキジラミを摂食していると推測される(宮武, 私信)。これらのことから本種は, キジラミ類やアブラムシ類を主とする半翅目腹吻類をひろく摂食すると考えられる。このような本種の広食性と, 今回報告したシャリンバイからの採集・飼育記録から, シロジウシホシテントウは近畿地方中部において, シャリンバイに発生するサツマキジラミの幼虫やアブラムシ類を食餌の一部として利用することにより, 従来知見のある山間部や丘陵地に加えて, 平野部や海岸部にも分布をしている可能性が推測された。

また今回検した成虫(飼育下での羽化個体を含む)の斑紋型は, 基本型3個体, 紅型3個体, 暗色型4個体となり, 検体数は少ないものの3つの型がほぼ同程度に出現し, 近畿地方中部において暗色型の発現頻度が高い可能性を示唆した。

謝辞

サツマキジラミを同定いただき, そのほかのキジラミ類に関する多くのご教示を頂いた宮武頼夫氏(関西大学)に心より感謝申しあげる。また, 文献をご教示いただき記録の公表を快諾いただいた松原豊氏(横浜市), 本種の採集状況をご教示いただいた山本博子氏(堺市)に深謝申しあげる。

採集記録 シロジウシホシテントウ *Calvia quatuordecimguttata* (LINNÉ)

1ex. (幼虫), 神奈川県湯河原町(シロダモより), 19. V. 1985, 松原leg.; 1ex. (成虫, 紅型), 大阪府大阪市東住吉区長居公園(シャリンバイより), 12. IV. 2006, 河上leg.; 10exs. (幼虫), 大阪府河内長野市天見(クワより), 25. V. 2006, 河上leg.; 3exs. (成虫, 基本型2・暗色型1), 大阪府泉南市樽井(シャリンバイより), 31. V. 2006, 河上leg.; 3exs. (成虫, 基本型1・暗色型2), 和歌山県和歌山市毛見名草の浜(シャリンバイより), 14. V. 2002, 河上leg.

<引用文献>

- HODEK, I. & HONEK, A., 1996. Ecology of Coccinellidae. Kluwer Academia Publishers, p. 171
 的場 績, 1986. 和歌山県のテントウムシ科. 南紀生物, 28 (2) : 89-92.
 松原 豊, 1987. シロジウシホシテントウ暗色型の採集例. 月刊むし, (191) : 37.
 宮武陸夫, 1978. てんとうむしノート (I) シロジウシホシテントウとジウニホシテントウは別種か? 昆虫と自然, 13 (1) : 9-16.
 大阪府, 2000. 大阪府野生生物目録. 大阪府農林水産部緑の環境整備室, 大阪, p.98
 佐々治寛之, 1985. テントウムシ科. 黒澤良彦ほか編, 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社, 大阪, pl. 43, p. 263
 初宿成彦, 1999. 大阪のテントウムシ. 大阪市立自然史博物館, p. 21
 初宿成彦, 2000. 大阪のテントウムシ-ミニガイドに掲載した最近の採集データについて- 宮武頼夫さん退職記念論文集編集委員会, Insecta Miyatakeana, p. 125-129

佐藤正孝博士の逝去を悼む

安藤清志

佐藤正孝さんが, 昨夏8月9日未明に逝去されました。享年69歳でした。この年の初めに体調を崩され, その後入院, 胆管癌と診断され2月24日に大手術を受けられました。そして療養を続けられ, 一時はまわりが驚くほどの回復力で, 7月中旬には, 松山で行われた昆虫学会四国支部大会に出席すると言われ, 制止するのが大変だったそうです。大会会場でその話をしながら, さすが「不死身の佐藤, 奇跡の回復」と噂し, 安心したものでした。しかし7月末になって容態は急変し, 瞬く間に幽冥境を分けることとなりました。

ご葬儀はご家族のご意向もあって虫屋の姿も少なく, 生前行動をともしておられた堀 義宏さん(前名古屋市衛生研究所)の, 止むことの無い男泣きが印象的でした。亡くなられる数日前には高熱

の中、親友である愛媛大学の大林延夫さんに海外への返却標本や所蔵標本、文献の取り扱いなど、身の回りの処理をいくつか託されていたそうです。

生来の虫好きであった佐藤正孝さんは、愛媛大学農学部農学科に進学され、昭和38年にご卒業された後も、公私とも終生昆虫学一筋の生涯でした。その間、ご勤務の大学はもちろんのこと、海外を含む多くの昆虫研究に携わる学徒が氏の恩恵に服したことでした。また、ご研究も多岐にわたり、膨大な研究結果を後世に残されました。虫三昧の生涯を送られたと申せましょう。それでいて気さくなお人柄と、今も目に浮かぶ満面の笑顔が氏のトレードマークでした。

私が佐藤さんと初めてお目にかかったのは、30年ほど前、佐藤さんが大阪の芝田太一氏のお宅に訪問されたおり、夕食をご一緒させていただいたときのことです。まだ新米の虫屋で若造であった私は、ただお二人のお話を末席でお聞きするのみでした。それでも気さくなお人柄はこちらに伝わり、学者然とした方が多いこの世界では珍しく、好印象を受けたものでした。そして、いつも日に焼けた容顔で、芝田さんからは「くろんぼ」と愛称を付けられていました。その後、私が愛媛大学の研究生として在籍するようになり、先輩後輩として松山でしばしばお会いする機会が多くなりました。親しく御厚誼をいただくようになって驚いたのは、その体力と食欲、それにも増して繁忙なスケジュールをどんどんと消化されながら、野外調査にも頻繁に出かけられていることでした。それでいて学生たちにも優しく接し、とりわけ研究熱心な学生の依頼には文献探索の労をも厭わない姿に呆れました。学生の頼みであっても分け隔てなく、決して断ることもありませんでした。佐藤さんには自分ができることは何でもしてあげるという姿勢が一貫してありました。佐藤さんは宗教には無関心な方でしたが、仏教で言う「喜捨」を実践した人に思えてなりません。それもととも自然に。そのような性格のため他人に誤解された部分もあったかもしれません。一度など、私が休日に自宅でひっくり返っていると、佐藤さんから電話があり「今、台湾の学生が関空（関西国際空港）の通関で引っかかっている。身元保証人を安藤君に指定しておいたのですぐ行くように」と言われ、押っ取り刀で空港に駆けつけたことがありました。多分佐藤さんには、自分でもする事は他人も当然喜んでするのだ、という思考回路があったようです。思い出深いのは、野外調査にご一緒したスラウェシでのことです。夜間採集が不作で、みんな興味を失って雑談に興じ始めた頃、こちらは単なるサラリーマン、頻繁に海外採集旅行が出来る身分ではないので、白幕に飛来する微小な甲虫まで執拗に採っていたら、白幕の反対側でも、佐藤さんが同じように鱗粉まみれになって吸虫管を操っていました。好きなんですねえ。ご専門を問わず、アマチュア以上に虫がお好きであったと感じられました。また、ミレニアムの夜も、日本はもう新年だね（時差のため）と言いつつ、投宿していた山中の民家で乾杯しながら談笑していたところ、佐藤さんの姿が見えません。その頃、氏は民家に隣接された発電機に照らされる白布を、一生懸命見回っておられたのです。

語りきれないほどの逸話を残して、佐藤さんは旅立って行かれました。まだやり残されたことが沢山あったであろうと残念でなりません。今になって、あのおときお聞きしておけば良かったと思うことがいろいろございます。あちらの世界でもあの笑顔を振りまいて、森林や河辺を闊歩されておられることを願っています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

V. クズネツォフ博士を偲ぶ

初宿成彦

2006年の甲虫学会年次大会の準備の最中、訃報が舞い込んだ。ウラジオストックにあるロシア科学アカデミー・極東支部・生物学土壌学研究所のV. クズネツォフ (Victor Nikolaevich KUZNETSOV) 博士が逝去された。2006年12月7日、死因は肝臓ガンとのことだった。

11月に連絡を取ろうと思ったところが、何度メールを送っても返事がなく、おかしいとのことで、

同僚の方にメール連絡したところ、重病で入院されているとのことだった。そういえば、7月末に同じテントウムシ研究者の佐々治寛之先生が亡くなったことを知らせたときも、返事が無かった。今思えば、そのときすでに、入院されていたのかもしれない。

博士は1944年、ロシア沿海州・ハンカ湖にほど近いパースクダリニーで生誕された。1966年にPrimorsk Agricultural Instituteを卒業された後、1968年に生涯勤めつづけた生物学土壌学研究所での職に就かれた。テントウムシの生態、分類、分布、生物防除、植物保護、自然保護などに関した論文が190以上あり、中でも1993年に2巻に分けてロシア語で出されたモノグラフ「ロシア極東のテントウムシ」(KUZNETSOV, 1993: 英訳本が1997年に出版)は、博士が残された最も大きな業績であると思う。

筆者と博士との直接の付き合いは2000年9月からだ。生物防除研究に関連して、農水省・農環研の招へいで来日され、名古屋で開かれた昆虫学会のあと、新幹線で大阪へお連れした。甲虫学会・秋季例会でロシア極東の自然についてスライド写真などで紹介してくださったほか、大阪城や京都・八幡の男山などにもお連れした。暖地性の美しいアミダテントウを、うれしそうに採集されていたのが印象的だった。筆者は野尻湖昆虫グループで氷河時代の昆虫化石を扱っていたので、そのだいぶ前から、ロシア極東で野外調査をしたいと考えていたが、博士の来日と交友関係の構築により、これが現実味を帯びたものとなった。翌2001年8月に、研究グループの林成多さん、春沢圭太郎さん、富永修さんと、ウラジオストックの地を踏み、北朝鮮国境にほど近いハサン地区や、ハンカ湖を中心とした湿地帯で、クズネツォフ博士の案内で、ネクイハムシなどの調査をすることができた。その後、2002年7月、2004年5月、2005年7月と、合計4回、沿海州やサハリンを案内してもらったが、仏頂面の多いロシア人の中にあって、いつも陽気な語り口と笑顔と細やかなお世話が心地よい、不思議なおっちゃんだった。博士とは、2005年12月にウラジオストックのFar Eastern Entomologist誌に出たココノホシテントウ *Coccinella explatana* MIYATAKE のロシア初記録が、最初で最後の共同研究報文となった(KUZNETSOV and SHIYAKE, 2005)。

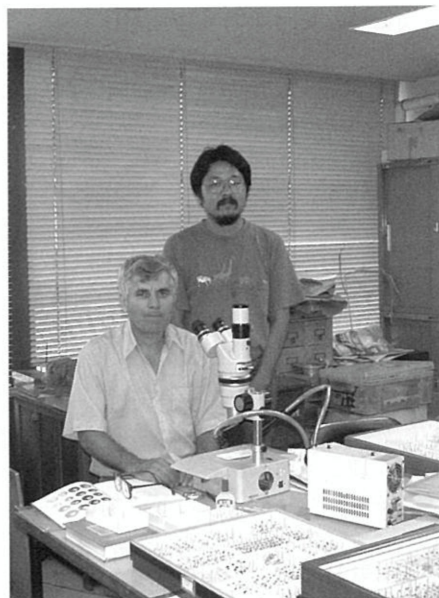
日本海をはさんだだけのウラジオストック。ようやく近くて近くなったという実感を持ち始めていただけに、62歳というのは、いささか早すぎる死であったと思う。今でも博士のウツカ臭い、ドライなロシア流ジョークが聞こえてきそうだ。

<文献>

KUZNETSOV, V. N. 1993. Coccinellid beetles (Coleoptera, Coccinellidae) of the Russian Far East. Parts 1 & 2. Vladivostok, Russia. 334pp. [In Russian.]

KUZNETSOV, V. N. 1997. Lady beetles of the Russian Far East. Center for systematic entomology, memoir no. 1. Gainesville, FL, USA. 248pp.

KUZNETSOV, V. N. and S. SHIYAKE 2005. *Coccinella explanata* MIYATAKE, 1963 is newly recorded species of lady beetles (Coleoptera: Coccinellidae) from Russia. Far Eastern Entomologist (156) : 13.



生物学土壌学研究所(ウラジオストック)
の博士の研究室にて。

近畿地方では比較的採集例の少ないオオキバハネカクシ類について

On the Species of *Oxyporus* and *Pseudoxyporus* Rarely from Kinki District, Japan

Tateo ITO

伊藤建夫

〒614-8371 京都府八幡市男山雄徳7 E12-102

古い記録も含むが、近畿地方では比較的採集例の少ないオオキバハネカクシ二種を分布解明の一助として報告しておきたい。発表を委ねられた大谷規夫氏、田中昭太郎氏、水野弘造氏に感謝する。

- 1) *Oxyporus niger* SHARP クロオオキバハネカクシ
1 ex., Mts.,Hatenashi, Nara Pref., 30-V-2000, S. TANAKA leg.
2exes., Ashiu forest, Kyoto Pref., 5-VI-2006, K. MIZUNO leg.
- 2) *Pseudoxyporus gnatho* (SHARP) マルモンオオキバハネカクシ
2exes., Mt. Kojin, Nara Pref., 17-VI-1962 and 12-VII-1965, N. OHTANI leg.
2exes., Mts. Hatnashi, Wakayama Pref., 18-V-2000, S. TANAKA leg.
1ex., Mt. Wasamata, Nara Pref., 25~26-VI-2005, K. MIZUNO leg.

こうひいづれいく (話のたね) 採集用具あれこれ (3)

簡単スポイト式吸虫管の制作

An Insect Suction Tool in Spuit form which can be Made Easily

Koichi NAKAYAMA

中山紘一

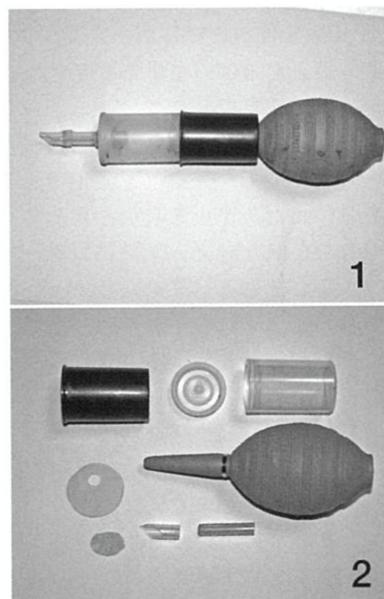
〒780-0911 高知県高知市新屋敷 2-9-20

はじめに

吸虫管は微小な昆虫を採集するには欠かせない道具の一つだが、口でくわえて使用するには抵抗のある昆虫も多い。以前、吉田正隆氏が本誌で紹介された電動式吸虫管はどんな昆虫でも遠慮無く吸引できることで広く使用されている。ただ、電動式はかなりの音がすること、スイッチ操作を素早く行わないと、土砂粒などの別のものを大量に吸い込んでしまうことがある。私は写真1のようなスポイト式吸虫管を作って10数年前から使用しているので、紹介する。

1. 写真2は材料で、左上から、コダック35mmフィルムケース、フジ写真フィルム35mmフィルムケース蓋、同フィルムケース、底紙、プロア、茶こしの金網を切ったもの、先端シリコンパイプ、先パイプである。

2. フジ写真フィルムの35mmフィルムケースのキャップ中央に穴を開け、先端のパイプを差し込む。テグスカ糸などを巻



き付けて動かないように接着剤で固定する。先端にはビニルパイプかシリコンパイプを斜めに切ったものを差し込んでおく(写真4左上)。できれば、昔の透明度の高い方のフィルムケースがよい。

ケースの底に適当な大きさの穴を開けて、茶こし用の目の細かい金網を張り、上から底の大きさに合わせ、穴の部分を取り取った厚紙を接着する(写真3)。

3. プロアはなるべく大きく、ゴムの肉厚のものを選ぶ、私が使っているのは 本体ゴムに HURRICANE JAMBO と記されている吹き飛ばし専用のプロアである。この後ろ側にはまっているシリコンゴムの弁を一度外して逆にして装着する。これで吸引用になる。吹き出し口のくびれ部分に金属の輪がはまっているがそれは取り除く。ノズルの部分は半分付近のところで斜めに切断する(写真4右下)。

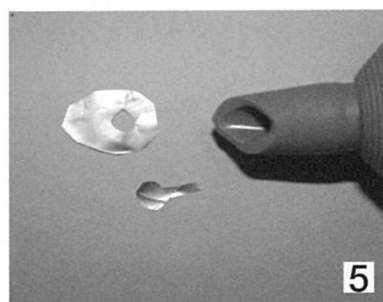
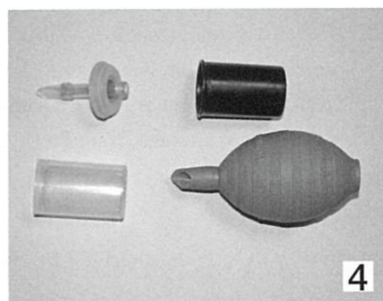
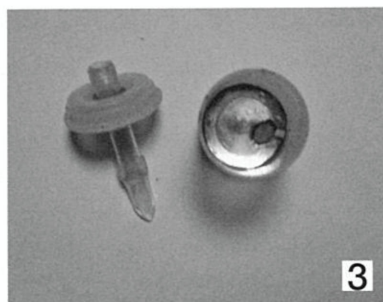
4. コダックの35mmフィルムケースを用意する。これは黒いものでも乳白色のものでもよい。フィルムケースの底にプロアのくびれ部分がやっと入り、空気が漏れない程度の穴を開ける。プロアの頭の部分を底の穴に差し込んで気室を完成させる。できるだけ先端から空気が吹き出さないようにするため弁を作ってプロアのノズル部(このために斜めにカットした)に接着する。フィルムケースにノズル部を差込んでから、ピンセットを使って、さじ型のもの(この部分だけをプロアのノズル部に縦に貼ってから穴の空いている弁座をノズル部分に接着する。うまく弁が作動するように接着しないと吸引力が低下する。この弁は省略することもできる(写真5, 6)。

5. フジのフィルムケースはコダックのフィルムケースの口の部分にぴったりとはまる大きさである。いつでもはめ込んだままにしておくコダックのフィルムケースが割れることがあるので、使用時にはめ込んで使うようにする。私はこの吸虫管を10数年使っているが、コダックのフィルムケースが破損して取り替えたのはいままで1度だけである。

コダックとフジのフィルムケースが組み合わせられることを利用して、電動、人力、などの吸虫管もコダックのフィルムケースを使って、先端部を共用できるものを作っておくと便利である。また、昆虫を吸引したのち、フィルムケースの蓋を普通のもの(この部分だけをプロアのノズル部に縦に貼ってから穴の空いている弁座をノズル部分に接着する。うまく弁が作動するように接着しないと吸引力が低下する。この弁は省略することもできる(写真5, 6)。

おわりに

プロア部分を握ったときに前方へも空気が少し吹き出すが、これは慣れると全く気にならない。このスポイト式吸虫管の吸引力はたいしたものではないし、使うのに少し慣れが必要だが、土を篩ってハネカクシやアリヅカムシ、小型のゴミムシ、アリ



などを採集するには具合がよい。あらかじめブロー部分を握って空気を出しておいてから先端の斜めに切ったシリコンゴムの部分で虫体を伏せるようにして吸い込むとよい。

白布に飛来したもののヤビーク・ネットに落ちたものを吸引するには吸引力が弱いので使い勝手はよくない。

フジのフィルムケースの底に金網を張ったものだけをいくつか作っておけば、場所によって先端部を取り替えて使えるので具合がよい。

書籍紹介 (I)

アリヅカムシの図鑑

野村周平・宮田隆輔・宮田俊江 (2006), 高知県のアリヅカムシ, げんせい, (81) : 3-46.

高知県産のアリヅカムシ目録 (115種) で, 都道府県別の産出種数として報告されたものとしては第1位と思われ, そのこと自体が驚異的な報告であるが何と云っても圧巻は, 図版数 21に及ぶ 106種の原色写真集である。保育社の図鑑における 1図版 36種の 3倍に相当し, 1図版あたり 8葉の割り付けなので拡大率が大きく細部まで見易い。体長寸法も写真の横に添えられて大きさの相互比較に便利である。欲を言えば, 種名も横に添えてあれば申し分のないものであろうが, これは無いものねだりに過ぎない。

「げんせい」は高知昆虫研究会の機関誌で歴史も長く, 質の高い報告が多いのでご存知の方も多いであろう。購入は「昆虫文献六本脚」より可能の由。 (水野弘造)

書籍紹介 (II)

「森と水辺の甲虫誌」 東海大学出版会 2006年 10月 丸山宗利編著

書籍紹介ということでしたが, 出版されて時間も経っていますし, また他でも書評が既になされていると思いますので, 目次の紹介と編集子の所感 (感想) をもってそれに替えたいと思います。

この本は, 現在シカゴのフィールド博物館にいます丸山宗利氏を編著者とし, 本人も含め 14名の中堅, 若手のプロの「甲虫屋」がまとめたものです。

内容は 1章 甲虫学入門 (ネジレバネは甲虫か) 丸山宗利; 2章 海辺にハンミョウあり (絶滅の危機に瀕する甲虫と湿地環境) 佐藤 綾; 3章 オサムシの眼を通して自然環境を見る (DNA解析入門) 堀 繁久; 4章 エンマムシ研究, 分類学と系統学 (DNA解析と生態学) 大原昌宏; 5章 モンシテムシはなぜ埋葬虫か? (DNA解析と分類学) 鈴木誠治; 6章 クサアリの巣の劇場 丸山宗利; 7章 アリヅカムシの未知なる世界 (1年間に発表される甲虫の新種) 野村周平; 8章 クワガタムシの多様性の秘密を探る 荒谷邦雄; 9章 家族で暮らす甲虫クロツヤムシ (子育てする甲虫) 常喜 豊; 10章 タマオシコガネの自然史 近 雅博; 11章 清流の妖精ヒメドロムシ 吉富博之; 12章 サルノコシカケの中の住人ツツキノコムシ 川那部真; 13章 個性豊かなマダラテントウ 片倉晴雄; 14章 ネクイハムシの 200万年 (甲虫の化石) 林 成多; 15章 単子葉植物に適応したオサザウムシ 小島弘昭 のごとく, 分類, 生態から進化学までにおよぶ非常に幅広いもので, また最新の学問的成果を述べたものです。

野村周平氏は「亜種研究の難しさ」と面白さの中で、『亜種は同一種内に存在する, 遺伝的地域変異であることは論を待たないだろう。しかし, 形態傾斜のような連続的地域変異とは, その分布パ

ターンが断続的である点で異なる。いいかえれば、ある地域変異は断続的でなければ亜種とは認められない。わたしはアラメヒゲナガ属のような地域分化の著しいグループの分類について、陸続きの種の分布域内で、ただ1地点のみから見つかった変異型は亜種と認めない。』と述べています。このくだりは同じハネカクシ科甲虫の分類を目指すものとして、種分化の著しい種間についても、同様に変異の連続性（不連続性）についての考察の必要性が重要なのではないかと、あらためて関心を持って読みました。最後に、戦後史をリードされて来た、先輩の「甲虫屋」の訃報をきく機会がつづく昨今、この書に代表される若手／中堅の「甲虫屋」の活躍に安堵するとともに、今後とも活躍におおいに期待するものです。 (伊藤建夫)

訂正とお詫び

1) 佐々治先生追悼文について

本誌第118号に掲載された「佐々治先生を偲んで」の文中にて、筆者が佐々治先生のご葬儀にご一緒させて頂いた先生方のうち、前藤先生（神戸大）は内藤先生（元神戸大）の誤りであった。内藤先生と前藤先生、そして佐々治先生のご霊と甲虫学会会員諸氏に、筆者のご無礼を深くお詫び申しあげる。また、筆者に誤りを早急に教えてくださった、宮武頼夫氏に心から感謝申しあげる。

(河上康子)

2) 生川氏投稿論文『ムナグロトウダマシの兵庫県での記録』について

本誌第118号に掲載された表記の生川氏の論文において、採集データが抜けていました。ここに掲載してお詫び致します。

(編集担当 伊藤建夫)

採集データ lex., 兵庫県宍粟郡波賀町音水, 29.VI. 2003, 田中 勇 採集。

ねじればね119号 Nejirebane No. 119

2007年4月30日 30. April 2007

発行者：日本甲虫学会 The Japan Coleopterological Society

発行所：日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, Japan

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集：伊藤建夫，林 靖彦，谷角素彦，初宿成彦，保科英人，安井通宏

原稿送付先：伊藤建夫 〒614-8371 八幡市男山雄徳7 E12-102 Tel. (Fax) 075-983-3491

E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp (和文 E-mailでの投稿を歓迎します)

入会及び会費問合せ先：野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 Tel. 0722-98-4066

(年会費: A会員 5,000円; B会員 6,000円)

昆虫学評論原稿送付先(英文)：林 靖彦 〒666-0116 川西市水明台 3-1-73 Tel. 0727-93-3712

E-mail: hayashiy@silver.ocn.ne.jp